

Ⅷ. 大学研修会における FD 活動報告

平成 21 年 3 月 10 日（火）、本学 621 教室において、平成 20 年度の大学研修会が開催された。この研修会は、本学教育研究企画委員会の主催によるもので、前半・後半の 2 部にわたる構成で実施された。

第一部では、学長による挨拶と本研修会の意義についてのコメントの後、総合教育研究センター長より本学がこれまで進めてきた教養教育改革、いわゆる「文教スタンダード 21」について経過報告がなされるとともに、平成 21 年度入学生から適用となる「グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度」について、基本的な考え方や国内の現状、今後の課題などについての説明があった。

その後、人間科学部学科長会代表より、各学科で検討を重ねた「学科ディプロマポリシー」が披露された。また、教育研究支援活動の実施報告として、ソシオ活動「不登校児ボランティア支援の経過報告」が担当者によってなされた。

若干の休憩をはさみ第二部ではまず、ファカルティディベロップメント専門委員会（以下、「FD 専門委員会」）による「FD 活動報告」が行われた。FD 専門委員会委員長が挨拶し、平成 20 年度の FD 専門委員会活動報告を行った。次に、授業評価アンケート担当の FD 専門委員からは、平成 20 年度後期の学生による授業評価アンケート結果と、結果を踏まえた若干の考察についての報告があった。

本年度、FD 専門委員会は大学内を調査し、学科及び個人レベルで実施されている FD 活動のピックアップ及び紹介を行ったが、その中でもモデルとなるような 2 件の組織的な FD 活動を実施した教員による実践報告が行われた。さらに、授業評価アンケート結果に基づき、FD 専門委員会が依頼した教員 3 名による FD 活動報告及び自己点検・評価の報告がなされた。



第二部後半には、学部将来計画プロジェクト委員会による「学部将来計画プロジェクトの活動報告」として、学生に対して行ったアンケートの結果報

告や計画の骨子についての説明が行われた。

以上の報告等が全て終了した後、全体を通しての質疑応答を経て、最後に学長による総評がなされ、研修会は終了した。

FD 活動が大学という教育現場における教育サービスの改善を促進することにつながるという前提に立った際、毎年開催される本研修会は、大学の教職員の意識改革を促進するという意味において、本学の FD 活動においても重要な機会であるといえる。



(報告者：溝渕 淳)